日本の学童ほい・く 普及拡大ニュース

全国学童保育連絡協議会

みんなで読もう！ 目標 3万5000部

子どもを学童保育に通わせる保護者と、子どもたちといっしょに毎日過ごしている指導員が書き手となり、働きながらの子育てを応援し、学童保育の充実の願いをこめてつくられている月刊誌です。みんなで読んで、語って、楽しみながら、よりよい学童保育をつくっていきましょう。

2023年3月2日

元気が出るみんなの取り組みをご紹介

楽しく普及拡大

夢を確信に！！
横浜連協の取り組み！

1年生全世帯に4月号をプレゼントしちゃいます！

神奈川県
横浜市
の
取り組み

2023年4月3日(月)

午前中は仕事に身が入らなかった。小学1年生になる長男を学童保育に預けて会社に向かったが、不安そうに私を見送る子どもの顔が目に焼き付いて離れない。昼休みも同僚とランチを取る気になれず、コンビニのおにぎりで済ませた。味もわからないまま食べ終えて、バッグからティッシュを取り出そうとしたとき、手にふれたものがあった。

それは1冊の小ぶりの雑誌のようなものだった。すっかり忘れていたが、朝、子どもを預けたときに学童保育の指導員が「これは1年生のお母さん、お父さんへのプレゼントです」と渡してくれたものだった。『日本の学童ほいく』と書かれたその本の表紙からはホッとするあたたかさが感じられた。「こんな本もあるんだ……」。ふとページを開いて読みはじめてみると、そこにはまるで私たち親子のことが書かれているように思え、ページをめくる指先にもだんだん力が入り、自分の子育てへの「自信らしきもの」を感じられるようになってきた。「みんなはじめのうちは、今朝の私のように、不安そうに見送る子どもと仕事が手につかない親だったんだな……」。

おかげで午後は順調に仕事をこなすことができ、子どもを迎えに学童保育に向かった。朝よりは自信らしきものが芽生えたものの、学童保育の建物が見えたときは再び不安のほうが大きくなってきた。ドアを開けて指導員の先生にお迎えを告げると、先生は「一日楽しそうでしたよ。いいえ、今でも。ほら！」と言って子どもたちのほうに案内してくれた。長男は高学年のお兄ちゃんたちと、家では見せたこともない笑顔で遊んでいた。すぐに私のほうへ駆けよろうとしたが、途中でお兄ちゃんたちのほうに元気よくふり返り「バイバイ！　またあしたね！」と手を振った。家までの帰り道でも、今日一日のことを「あのね」「あのね」とくり返して話してくれた。「こんなにしゃべる子だったかしら……」。やや戸惑いながらも、自分のなかで昼間に感じた子育てへの「自信らしきもの」が「確信」に変わっていくのを感じていた。「不安」で始まった一日だったが、昼からは「自信」へ、そして今「確信」で終わろうとしている。その変化のきっかけを与えてくれたのは『日本の学童ほいく』という小さな1冊の本だった。今日はこの本に出逢えたことに感謝しよう……。

てなことを夢見た、いや確信した**横浜連協は、1年生全世帯に4月号プレゼント！♪はじめました～！**

日本の学童ほいく 2023年3月号

特集 たしかめよう学童保育指導員の仕事と労働条件

子どもにとって学童保育は、自ら通いつづけることができ、安全に安心して過ごせる充実した生活の場であることが大切です。今月の特集では、学童保育の役割を果たすうえで求められる学童保育指導員の仕事についてたしかめあい、そのために必要な指導員の労働条件を学びあいます。

全国学童保育連絡協議会

日本の学童ほいく 普及拡大ニュース

みんなで読もう目標 3万5000部

2023年3月2日

子どもを学童保育に通わせる保護者と、子どもたちといっしょに毎日過ごしている指導員が書き手となり、働きながらの子育てを応援し、学童保育の充実の願いをこめてつくられている月刊誌です。

読者の声

奈良県生駒市●指導員から

2022年12月号の特集「出会い 集い 父母会」のコーナーに工藤美佐さんが書かれた「つながりを育み、次世代へつなげていくことを祈って」を読んで、私の子どもの頃を思い出しました。私が指導員になったのも、私の子どもが学童保育に行くようになったのも、「新型コロナウイルス感染症」が拡大して制限を設けざるを得ない時期でした。

保護者の方とのつながり、親子での交流・行事がとてもうらやましく、とくに私が子どもの頃楽しみだった「餅つき大会」の話を書かれていたのを読んで、昔を思い出し、ワクワクしました。私自身も子どもが学童保育に通う保護者でもあります。知っている方が少なく、はじめは不安もありましたが、係をしたり、交流の場に参加させていただくことで出会いがあり、「前向き」になることに共感をおぼえました。交流の機会や、人とのつながりを大切にする気持ちを、私も次世代につなげていけるよう過ごしていきたいです。

『日本の学童ほいく』2023年3月号「読者のひろば」より

鳥取県鳥取市●指導員から

私が勤める学童保育の高学年の男の子たちは、指導員に面と向かって「どこかに行こう、連れていって」と言いません。しかし彼らが常々、少人数の気のあう仲間と、こっそり出かけたいと思っていることに、気づいている指導員です。秋の気配を感じる、ある晴れた日に、高学年の男の子たち数人の気持ちが「どこかへ行きたいなぁ」と一つになり、出かけることになりました。とりあえず進む方向だけは決めて、野外活動に必要な最小限のアイテムを持って出発しました。四つ角にさしかかると、どの道を進むかを子どもたちが決めて進みます。ワクワクする散歩です。最終的には湖山池(日本一の広さの池)にたどり着き、蟹や魚を釣りはじめた子どもたち。のんびりと時間の許すかぎり、釣りを楽しんでいました。帰り道、池のそばにある広い芝のグリーンフィールドでゴロゴロしたり、相撲をとったり、木切れを拾って野球をしたり……。専用の道具がなくても、いままでの経験値をいかして工夫して遊びはじめる子どもたちです。自然のなかでの活動は、部屋のなかでは気づかなかった子どもたちの成長を感じることができます。

夏休み中、班長・副班長として三年生、四年生たちの面倒をしっかり見てくれた彼らです。気のあう仲間と戯れながら楽しげに帰る姿を、離れて眺めながら「ありがとう」とつぶやく私でした。

『日本の学童ほいく』2023年3月号「読者のひろば」より

私と「ほ・い・く・誌」

読者リレー執筆・今月は新潟県南魚沼市から 指導員の 山田文子さん

私の指導員人生がスタートしたのは、知人の産休代替の話を受けたことでした。先輩指導員からの「自分の好きなようにやっていいよ」の言葉を受けて、「学童保育ってなに？」と疑問がますます深まりました。そんなとき、毎月届く『日本の学童ほいく』の誌面に、全国学童保育指導員学校の案内があったのが目に入り、すぐに申し込みました。参加した講座では、全国の指導員の方々に圧倒されつつも話に引き込まれ、「学童保育って……」という疑問がなくなったわけではないですが、子どもたちと過ごす毎日が少しずつ楽しくなった気がしました。

ふり返ると、毎号、全ページではなく、自分の読みたいところやホッとできる誌面だけを読んでいました。少々読みが足りなかったと反省もあります。それでも、日々のおたよりで保護者向けに記事の紹介を掲載したり、職員間の学習や打ち合わせなどに使ったりしてきました。

まだまだ勉強不足を感じてはいます。ほいく誌がなかったら、私自身〝井の中の蛙大海を知らず〟の蛙のままだったかもしれません。ほいく誌を通じて大海を知ることができ、いまの自分がいるのではと思っています。ありがとうございます。

編集・発行 全国学童保育連絡協議会 〒113-0033 東京都文京区本郷2-26-13 TEL●03-3813-0477 FAX●03-3813-0765
E-mail●zghrk@xui.biglobe.ne.jp http://www2s.biglobe.ne.jp/~Gakudou